

刈谷城盛上げ隊に会うには



全国の戦国イベントに出陣！

刈谷城盛上げ隊は刈谷市歴史博物館や刈谷ハイウェイオアシスで月に1回定期出陣をしています。その他にも、刈谷のイベントを盛り上げるため出陣することも。藩主さまたちの最新出陣情報は公式HPやSNSなどで公開されています。



ホームページ



X(Twitter)



Instagram



亀城公園

伝通院
荒川屋製菓舗

郷土資料館

地域密着観光情報誌

刈谷 じゃん！

刈谷城盛上げ隊とめぐる
刈谷の歴史旅

刈谷市マスコットキャラクター
「かつなりくん」

椎の木屋敷跡

いもかわうどん
きさん

依佐美送信所記念館

刈谷駅前 観光案内所

KARIYA TOURIST INFORMATION

観光案内、イベント情報など刈谷のことなら何でも分かる便利スポットです！観光パンフレットも盛りだくさん。休憩スペースや携帯充電、KARIYA FREE Wi-Fiなどの無料サービスも充実しています。



お土産販売

お菓子などの刈谷土産や、かつなりくんグッズを多数販売！帰省、出張のお土産に最適です。



KARIYA FREE Wi-Fi

スマートフォンやタブレットでメールアドレスやSNSアカウントを登録することで、インターネットを無料でご利用いただけます。



無料レンタサイクル



気の向くままの観光に便利な電動アシスト自転車。その軽快さをぜひ感じてみてください。ノーパンクタイヤ仕様でパンクの心配もありません！

※フル充電でおよそ30km～40km走行可能です。
※身分証明書の提示、1,000円の保証金をお預かりします。問題がなければ、利用後に返却します。

マンホールカード

配布しています

◆お1人様1枚
◆手渡しでの配布

無料

※郵送・電話予約はできません。

マンホールカードは、下水道事業への理解と関心を深めてもらうことを目的に、下水道広報プラットフォームが発行するカードです。全国各地の優れたデザインのマンホール蓋がカード化され、コレクターも多い人気のアイテムです。

SNS

随時情報発信中！



こちらのQRコードからホームページ・各種SNSへお進みいただけます。

※QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。



住所 刈谷市相生町1丁目1番地6 刈谷市産業振興センター 1F
定休日 毎月第2水曜日・年末年始(12月29日～翌年1月3日)
営業時間 10:00～18:00
電話 0566-45-5833

刈谷駅前観光案内所

地域密着観光情報誌「刈谷じゃん！」令和7年3月発行 【編集・発行】刈谷駅前観光案内所

わしらと一緒に
出陣じゃ～

刈谷城盛上げ隊 プロフィール

平成25年5月、刈谷城築城480年を記念して刈谷城復元の機運を盛り上げるために「刈谷城築城盛上げ隊」が結成されました。そして平成28年度より「刈谷城盛上げ隊」と名を改め活動を継続しています。メンバーは刈谷城築城主と江戸時代に刈谷藩で活躍した藩主から構成されています。



刈谷には縄文人が住んでいた

縄文時代

いもかわ

芋川遺跡

P.11 MAP ①



芋川遺跡は、逢妻川左岸の碧海台地上にあり、昭和44年(1969)・58年および61年の3度にわたって発掘調査が実施されました。縄文時代中期～晩期、古墳時代、奈良時代にわたって集落が営まれ、各時代の竪穴式住居跡や土器などの遺物が出土しています。平成8年(1996)に愛知県指定史跡となりました。

- ① 刈谷市一ツ木町7-33-7
- ② 刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」一ツ木線「一ツ木7丁目」バス停から徒歩5分

あまこ

天子神社貝塚

P.11 MAP ②

天子神社境内を中心に広がる縄文時代後期から晩期の貝塚です。遺物は縄文土器・石器・骨角器・貝製品などのほか、貝類・獣骨が出土しています。昭和42年(1967)に愛知県指定史跡となりました。

- ① 刈谷市小山村町6-70 他
- ② 刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」運動公園・東刈谷線「日高町2丁目」バス停から徒歩9分

はっさき

ハッ崎貝塚

P.11 MAP ③



刈谷で最も古い縄文時代早期後半の貝塚です。昭和30～31年(1955～1956)と同56年に発掘調査が行われました。その結果、縄文時代早期から古墳・奈良・平安時代にわたる土器や石器、骨角器なども出土しました。昭和59年に愛知県指定史跡となりました。

- ① 刈谷市小山村町5-2
- ② 刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」西境線、運動公園・東刈谷線 名鉄バス刈谷駅～愛知教育大学線「新富町5丁目」バス停から徒歩10分



刈谷の歴史は古く、縄文時代から人が住んでおったのじゃ!

刈谷城築城主 水野忠政

コラム 元刈谷式土器

本刈谷貝塚から発見された土器のうち、やや厚くした口の部分に細い竹を割ったような道具で押印文、平行線文、波状文などの文様をつける土器を元刈谷式土器と呼び、縄文晩期前葉(今から約3000年前)の西三河地方の土器の指標となっています。



(画像提供 刈谷市歴史博物館)

もとかりや

本刈谷貝塚

P.11 MAP ④

縄文時代晩期の貝塚が本刈谷神社境内を中心に広がっており、愛知県指定史跡になっています。ハイガイを主とした貝塚で、10数体の埋葬人骨、シカやイノシシの骨などが発見されました。

- ① 刈谷市天王町4-2 他
- ② 刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」運動公園・東刈谷線「日高町2丁目」バス停から徒歩9分



縄文時代の刈谷

刈谷市は、愛知県内でも縄文時代の遺跡が多い地域として知られています。特に、逢妻川沿いの台地には多くの貝塚が残されており、そこから縄文土器や石器など、当時の生活道具がたくさん見つかりました。ハッ崎貝塚・天子神社貝塚(小山村町)、山の神遺跡(山池町)、芋川遺跡(一ツ木町)、本刈谷貝塚(天王町)は「刈谷西部の縄文遺跡」として愛知県の指定史跡になっています。縄文時代には、現在よりずっと奥まで入り江になっており、陸地との境にはハイガイやマガキなどがすむ干潟が広がっていたため、人々はさかんに貝を採って暮らしていました。



(刈谷市歴史博物館HPより)

現在もある神社が創建される

飛鳥時代・奈良時代・平安時代

いちばらいなり

市原稲荷神社

P.11 MAP ⑤

白雉4年(653)に、亀狭山(現在の亀城公園)に創立されたと言われています。水野忠政の刈谷城築城と共に市原の地に移りました。寛永9年(1632)松平忠房以来、神具を整えて神輿渡御祭を執り行う事を定め、その警護役として大名行列を整え現在まで継承されています。代々の刈谷藩主は社領などを寄付することが習わしとなっており、手厚い崇敬を集めました。

- ① 刈谷市司町8-52
- ② 0566-21-1755
- ③ 刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」小垣江・依佐美線「司町4丁目」バス停から徒歩3分



おがきえしんめい

小垣江神明神社

P.11 MAP ⑥

西暦588年より天照大御神をはじめとする多くの神を祀る刈谷市最古の神社です。一説には日本武尊が東方遠征の帰り道に小垣江の美しい入り江をご覧になり熱田の地と間違えてこの地に降り立たれ、伊勢の御分霊を祀ったと言われています。

- ① 刈谷市小垣江町下56
- ② 0566-22-5880
- ③ 名鉄三河線小垣江駅から徒歩5分



野田八幡宮

P.11 MAP ⑦

正安2年(1300)の棟札に、白鳳5年(676)大市郷今留丘に創建され、今留明神・物部氏の祖先を祀ったとあります。むかしから武の神として武人からの信仰があつて、歴代の刈谷藩主、福島藩主にあがめられ、特に福島藩主の板倉氏は三河領内の総氏神として崇拝しました。境内の森は今留の森として地域の人々の憩いの場となっています。

- ① 刈谷市野田町東屋敷62
- ② 0566-23-8649
- ③ 刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」小垣江・依佐美線、運動公園・東刈谷線「たんぼ」バス停から徒歩2分



熊野神社

P.11 MAP ⑧



応神天皇の玄孫である彦主人王が伊邪那岐命、伊邪那美命の2神を祀り、糟目天神と称しました。社伝によると、宇多天皇在位の頃(887～897)に、三善清行が舟塚より上陸し熊野三神を祀ったとされます。熊野三社と称し、糟目天神熊野三社権現と親しまれましたが、明治維新の際、熊野社と改称しました。舟塚は、彦主人王や三善清行が、この地の松に舟をつないで上陸したとされる場所です。石柱には「熊野社御神体上陸之地」と刻まれており、当地の熊野信仰を伝えています。

- ① 刈谷市築地町3-24-1
- ② 刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」一ツ木線「雁が音中学校」バス停から徒歩3分



井ヶ谷古窯跡群

刈谷市北部の井ヶ谷地区

を中心とした地域では、奈良時代から鎌倉時代にかけて、さかんに陶器が生産されていました。陶器を焼く窯跡は、これまでに76基が発見され、そのうちの8基が市の史跡に指定されています。

古窯分布図

●古窯のあった場所



(刈谷市歴史博物館HPより)

最も古い奈良時代には、須恵器を焼いていました。その後、平安時代前半に最も生産が盛んになりました。仏具などの金属器を真似た、さまざまな形の灰釉陶器*を焼いていましたが、しだにおわんやお皿などの食器を焼くようになりました。平安時代後半から鎌倉時代前半にかけては、山茶わんとよばれる釉薬を使わないおわんやお皿を大量に焼くようになりましたが、短い期間で生産を終えました。

※灰釉陶器…植物の灰を原料にした釉薬を掛けて焼かれた陶器

飛鳥時代、奈良時代、平安時代にかけて刈谷に現代も残る神社が創建されておるぞ!

刈谷城築城主 水野忠政



莊園の発達と古の鎌倉街道

鎌倉時代・室町時代

鎌倉街道伝承碑

P.11 MAP ⑨

祖母神社にある「鎌倉街道伝承地」(刈谷市指定史跡)の碑です。鎌倉街道は、古代の東海道をもとに整備された京都と鎌倉をつなぐ鎌倉時代の幹線道路で、年貢や京都―鎌倉間の連絡を行う使者、軍勢、公家・僧侶といった旅行者などが行き交っていました。刈谷市内では西境・東境村を通過していたと考えられており、1601年に徳川家康が定めた近世東海道と区別して「鎌倉街道」とも呼ばれています。室町時代には、八橋宿(現知立市)の衰退や山道を避けるルートの開発などによって街道は南に移り、今川・今岡―ツツ木村を通る道が使われるようになりました。

莊園とは寺社や貴族が自身の財力によって切り開きつづけた大きな大きな農園のことじゃ。

刈谷藩初代藩主 水野勝成



- ⑨ 刈谷市東境町町屋52-1
- ⑩ 刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」東境線・西境線「富士松北小学校」バス停から徒歩7分



重原莊

重原莊は、刈谷市域や知立市、豊田市・安城市の一部を含む広い地域を範囲とした荘園です。鎌倉時代、重原莊を含む三河は後鳥羽上皇の母七条院が治めていました。ここには地元の領主として、地名から重原氏を名乗る武士がいました。重原氏は、1213年京都法勝寺の九重塔開眼供養の際、後鳥羽上皇の護衛に参加し、その後も鎌倉幕府打倒のために承久の乱(1221)を起こした後鳥羽上皇のもとにはせまじましたが、敗北して没落してしまいます。乱後は、二階堂氏が重原莊の地頭となったほか、幕府の有力者である足利義氏が三河国に入り、足利一門や得宗(執権北条氏当主の家系)の所領が広がりました。建武の新政では、足利尊氏領となり、大仏氏が地頭に任命されています。



(刈谷市歴史博物館HPより)

天子神社

P11 MAP ⑩

天文21年(1552)、伊勢国に住む小山太郎・加藤藤磨などがやってきて、正殿を建立したとされます。以来、当地の氏神として少彦名命を崇め、天子大明神としました。境内に天子神社貝塚があります。(P.2)

- ⑩ 刈谷市小山町6-71
- ⑪ 刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」運動公園・東刈谷線「日高町2丁目」バス停から徒歩9分

僕の活躍した戦国時代までの刈谷の様子も興味深いぞ!



刈谷藩初代藩主 水野勝成

刈谷城築城と城下町の形成

安土桃山時代・江戸時代前期

於大の方は徳川家康公の母君じゃ!家康公はワシの従兄弟なのじゃ!



刈谷藩初代藩主 水野勝成

椎の木屋敷跡

P.11 MAP ⑪

徳川家康の生母である於大が、岡崎城主の松平広忠に離縁されて刈谷に戻された際、一時住んだといわれている場所です。江戸時代は「霊地」とされて、一般の出入りは禁止されていました。中央はくぼ地で周囲が高く、椎の木が多く茂っていて、五輪塔が数基あったとされています。現在は亀城小学校の東にその一部が椎の木屋敷跡として整備され、わずかに面影を残しています。

- ⑪ 刈谷市銀座6丁目58-18
- ⑫ 名鉄三河線刈谷市駅より徒歩11分
- 刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」小垣江・依佐美線「銀座4丁目」バス停から徒歩2分



刈谷城とは



(刈谷市歴史博物館HPより)

文明8年(1476)頃、衣ヶ浦を挟んだ西側にあった緒川城(東浦町)の城主であった水野貞守が刈谷に進出して、現在の本刈谷神社の北にあたる場所に城を築きました。これが最初の「刈谷城(刈谷古城)」です。その後、天文2年(1533)にこれまでの城が手狭になったという理由で、現在の亀城公園の地に水野忠政が築城しました。これが現在の「刈谷城」になります。刈谷城は、三河最西部、境川河口の衣ヶ浦の入江に突き出した台地のの上に築かれた平山城でした。西の衣ヶ浦に面して、本丸を置き、周りに堀を巡らし、その外側に二の丸、その東側に三の丸がありました。



正徳期(1711~16)頃の刈谷城(刈谷市HPより)



八代藩主 阿部正栄

刈谷城最中

御菓子所みづ乃

P.11 MAP ⑬

お城の形をした最中で、皮と北海道産小豆を使用したこしあんが別になっているので、いつでもバリバリとした食感を楽しむことができます。

- ⑬ 刈谷市御幸町4-105
- ☎ 0566-21-0517
- 🕒 9:00~18:00(日曜日は17:00まで)
- 🗓 木曜日
- 🚗 有(2台)



本丸跡碑

P.11 MAP ⑫



本丸は城の中心です。1647年の城絵図によると、本丸は長方形で、東西約50m×南北約80mの広さでした。西側は衣ヶ浦に面した小高い一画で、周囲は土塁と石垣によって囲まれ、表門と裏門の2つの門で出入りができました。正徳期(1711~1716)ころの城絵図によると、本丸内には番所と井戸があったことが確認できます。

- ⑫ 刈谷市城町1
- ⑬ JR東海道線逢妻駅より徒歩20分
- 名鉄三河線刈谷市駅より徒歩16分
- 刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」小垣江・依佐美線「司町4丁目」バス停から徒歩4分

大手門碑

P.11 MAP ⑬



大手門とは城の正門にあたるところです。門の前には番所があり、通ることができるのは藩士のみでした。

- ⑬ 刈谷市城町1
- ⑭ 名鉄三河線刈谷市駅より徒歩11分
- 刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」小垣江・依佐美線「銀座4丁目」バス停から徒歩5分

札の辻跡

P.11 MAP ⑭



江戸時代に幕府の定めが書かれた高札が掲げられていたことから札の辻と呼ばれるようになりました。この場所が、多くの人が行き交う刈谷城下の中心でした。

- ⑭ 刈谷市銀座4-29
- ⑮ 名鉄三河線刈谷市駅より徒歩7分
- 刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」小垣江・依佐美線「銀座4丁目」バス停から徒歩2分

二の丸跡碑

P.11 MAP ⑮

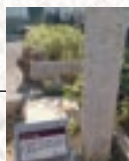


本丸から表門を出た一段下がった場所と、東側に2つの門を通った先の場所を、二の郭、または二の丸と呼びました。二の郭の南西には二層の月見櫓があり、月見を楽しむための櫓であったとされています。また正徳期(1711~1716)の絵図によると、月見櫓の北側に火薬を保存するための倉庫である「煙硝蔵」もあったとされています。

- ⑮ 刈谷市城町1
- ⑯ 名鉄三河線刈谷市駅より徒歩14分
- 刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」小垣江・依佐美線「司町4丁目」バス停から徒歩2分

町口門碑

P.11 MAP ⑯



町口門は城下町と城内を分ける門です。門の内側を丸の内と呼びました。門を入った左手に番所がおかれ、町人は鑑札をもってただけが通行を許されました。昼七つ時(16時ごろ)には門を閉めて通行を禁止しました。

- ⑯ 刈谷市銀座5
- ⑰ 名鉄三河線刈谷市駅より徒歩9分
- 刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」小垣江・依佐美線「銀座4丁目」バス停から徒歩4分

わしが築城したのじゃ〜



刈谷城築城主 水野忠政

刈谷城と刈谷の歴史にちなんだお菓子

亀甲かき

松下米華堂

P.11 MAP ⑯

亀城とも呼ばれた刈谷城にちなむ亀の甲羅の形をした硬い醤油味のおせんべいです。昔からの伝統が引き継がれている老舗の味です。

- ⑯ 刈谷市御幸町1-56
- ☎ 0566-21-0900
- 🕒 9:00~18:00
- 🗓 日曜日・第3月曜日
- 🚗 なし



伝通院

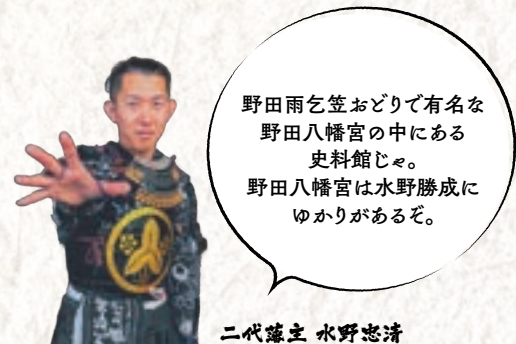
荒川屋製菓舗

P.11 MAP ⑯

徳川家康の生母「於大の方」の晩年の名前を冠した銘菓。熊本県産の栗を使った栗きんとんを北海道産小豆と備中白小豆の2つの味の羊羹で包みました。「於大の方」らしい上品なお菓子です。

- ⑯ 刈谷市小垣江町東王地68-1
- ☎ 0566-21-0704
- 🕒 9:00~18:30
- 🗓 毎週火曜・第2・第4月曜日
- 🚗 有(3台)





野田雨乞笠おどりで有名な
野田八幡宮の中にある
史料館じゅ。
野田八幡宮は水野勝成に
ゆかりがあるぞ。

二代藩主 水野忠清

いもかわうどん発祥の碑

P.11 MAP ㉔

きしめんの元祖で江戸時代に東海道の名物だったとされる「いもかわうどん」。この辺りで旅人にふるまわれていたと考えられます。芋川とは地元の古い地名(現・刈谷市一ツ木町)で、東海道を西に伝わり、「きしめん」になったと考えられています。また関東ではうどんのことを「ひもかわ」と呼ぶ地域がありますが、「いもかわ」が訛ったものだと考えられています。



きさん

P.11 MAP ㉔

江戸時代に東海道随一とうたわれた「いもかわうどん」を再現し提供しています。そのほか厳選素材を使用した石臼碾きそば、味噌煮込みうどんも人気です。



- ㉔ 刈谷市一ツ木町7-14-1
- ☎ 0566-27-8537
- 🕒 昼11:00～14:30(L.O14:00)
夜(金・土・日のみ)18:00～21:30(L.O20:30)
- 🚰 水・木曜日、および月・火曜日の夜
- 🚗 P有(8台)



刈谷市歴史博物館 P.11 MAP ㉔



刈谷の歴史に親しみ学ぶことのできる施設として、平成31年に開館しました。館内には、歴史ひろば(常設展示室)、お祭りひろば(祭り展示室)、企画展示室の3つの展示室のほか、歴史博物館で所蔵している資料や図書を閲覧することができる資料閲覧室を備えています。地域にある歴史資料のほか、全国に散在する刈谷に関する資料を収集調査し、展示により紹介しています。

野田史料館

P.11 MAP ㉔

野田八幡宮の境内に昭和56年(1981)に地域住民によって設立されました。野田八幡宮の宝物類、野田村役場保存の古文書類約5,000点が保管・展示されています。

- 🕒 毎月第1日曜日と15日、毎月第4土曜日の午前中



洲原池の誕生

P.11 MAP ㉔

刈谷市の北部、井ヶ谷地区にある洲原池はかんがい用のため池で、面積は16ha。最も深いところで5m。刈谷藩主土井利徳の頃(1767～1787)に造られたといわれています。かつては新池と呼ばれていましたが、洲原神社を祀るようになって洲原池と呼ばれるようになったとされます。



洲原神社

P.11 MAP ㉔

一説には、堰堤の決壊に悩まされた住民が、五穀豊穡・雨乞いの神として名高い美濃国洲原神社の分社として創建したのが始まりと言われています。菊理比咩命、蛭子命、大己貴命、大日靈貴尊、偶偶突智命を祀ります。



- ㉔ 刈谷市井ヶ谷町洲原1
- ㉔ 刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」東境線「洲原公園北口」バス停から徒歩5分

戦国の世が終わり、太平の世を迎えた
刈谷の様子も注目じゅ!



二代藩主 水野忠清

歴史博物館には
ワシらも定期的に
出陣しているのじゅ!
→裏表紙参照



四代藩主 松平定政

歴史ひろば

刈谷の特徴的な3つの時代として「刈谷の縄文時代」「刈谷藩と城下町」「刈谷発の近代化」をテーマに、刈谷の歴史を紹介。「刈谷藩と城下町」コーナーでは、館内で貸し出しているタブレットを刈谷城のジオラマにかざすと江戸時代の暮らしや刈谷城の説明をARで見ることができます。CGで再現された当時の人々がジオラマの中で動き回り、刈谷城や城下町がリアルに再現されるので一度お試しを。

- ㉔ 刈谷市逢妻町4-25-1
- ☎ 0566-63-6100
- 🕒 9:00～17:00
- 🗓 月曜日(月曜が祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、年末年始(12月29日～翌年1月3日)など
- 🆓 無料(企画展の場合有料あり)
- ㉔ JR東海道線逢妻駅 名鉄三河線刈谷市駅より徒歩15分
刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」東刈谷・逢妻線「刈谷市体育館」バス停すぐ

江戸時代 刈谷藩藩主9家22名

刈谷藩については、水野勝成のあと、分家水野家、深溝松平家、久松松平家、稲垣家、阿部家、本多家、三浦家、土井家の9家22人の藩主が継ぎます。この藩主たちは、現在の会社員の転勤のように全国にわたって転封していきます。刈谷藩は、阿部氏の時代に最小の1万6000石、本多氏の時代に最大の5万石を領しています。



1533

刈谷城築城

刈谷城築城主

水野忠政(水野家)

もともと現在の東浦町緒川に本拠地があった水野家の当主で、1533年に刈谷城を築き、刈谷に移りました。徳川家康の母である於大の方は忠政の娘です。墓所は東浦町の乾坤院にあります。

刈谷のお隣の
東浦の出身なのじゅ～



水野忠政

1550

1600

関ヶ原の戦い
水野勝成刈谷藩初代藩主となる

刈谷藩初代藩主

水野勝成(水野家) 1600～1615

戦国時代から江戸時代初期にかけて活躍した武将・大名であり、武勇に優れた人物として評価され、「鬼日向」とも称されるほどの豪傑でした。勝成の父忠重と徳川家康母の於大は姉弟であるため徳川家康とは従兄弟の関係にあたります。1600年、父忠重の不慮の死により、家督を引き継ぐ形で刈谷城主となりました。その後大坂冬の陣・夏の陣での功績により大和郡山に転封。さらに1619年には備後国に転封となり、福山城を築城、88歳で亡くなるまで福山藩の発展に大きく貢献しました。

刈谷市公式
マスコットキャラクター
『かつなりくん』は
ワシがモデルなのじゅ～



水野勝成

二代

水野忠清(分家水野家) 1616～1632

天正10年(1582)刈谷城主水野忠重の4男に生まれました。慶長5年(1600)関ヶ原の戦いに出陣。その後上野国小幡から刈谷藩に転封。その後も三河国吉田・信濃国松本に転封しました。正保4年(1647)没。墓所は、東京都文京区伝通院、長野県松本市玄向寺。

豊橋でも
有名な人のじゅ～



水野忠清

三代

松平忠房(深溝松平家) 1632～1649

四代

松平定政(久松松平家) 1649～1651

慶長15年(1610)山城国伏見藩主松平定勝の6男として生まれました。家康の生母である於大は祖母にあたります。慶安2年(1649)伊勢国長島から転封して刈谷藩主となり、領内の新田開発に尽力しました。寛文12年11月(1673年1月)没。墓所は愛媛県松山市。

わしは刈谷藩の
藩主を2年半しか
やっていないのじゅ～



松平定政

五代

稲垣重綱(稲垣家) 1651～1654

六代

稲垣重昭(稲垣家) 1654～1688

七代

稲垣重富(稲垣家) 1688～1702

1700

八代

阿部正春(阿部家) 1702～1709

寛永14年(1637)武蔵国岩槻藩阿部重次の次男に生まれました。慶安4年(1651)兄の定高が家督を継ぎ、上総国大多喜藩1万6千石を分与されました。元禄15年(1702)刈谷に転封し、その際に十念寺に十一面観世音菩薩を寄進しています。宝永6年(1709)に隠居、正徳6年(1716)没。

幕府の命令で
刈谷にやってきた
のじゅ～



阿部正春

九代

阿部正鎮(阿部家) 1709～1710

十代

本多忠良(本多家) 1710～1712

十一代

三浦明敬(三浦家) 1712～1724

十二代

三浦明喬(三浦家) 1724～1726

十三代

三浦義理(三浦家) 1726～1747

十四代

土井利信(土井家) 1747～1767

三河西尾藩主土井利康の長男として生まれました。享保19年(1734)、父の死去により家督を継ぎました。延享4年(1747)2月11日、三河刈谷藩に移封されました。明和4年(1767)8月18日に養子の利徳に家督を譲って隠居しました。

西尾から
やってきたのじゅ～
よろしくなのじゅ～



土井利信

1750

1778

洲原池の誕生
秋葉神社の祭礼に万燈が奉納される

十六代

土井利制(土井家) 1787～1794

1790

寛政の一揆

1791

刈谷藩と福島藩の領地替え

十七代

土井利謙(土井家) 1794～1813

1800

十八代

土井利以(土井家) 1813～1829

十九代

土井利行(土井家) 1830～1838

二十代

土井利祐(土井家) 1838～1846

二十一代

土井利善(土井家) 1847～1866

1850

天誅組の変

1863

二十二代

土井利教(土井家) 1866～1871

1867

大政奉還 江戸時代の終了



寛政の一揆と福島藩・重原藩による統治

江戸時代後期

昌福寺

P.11 MAP 25

応永15年(1408)の創建で、承応元年(1652)に浄土宗に転じ、寿永山昌福寺と改められました。寛政の一揆の発端となった寺参会が小垣江専称寺とともに開かれたことで知られています。「フェライトの父」と呼ばれる加藤与五郎の墓の他、日本ビクターの元副社長でVHSビデオの開発の陣頭指揮にあたった「ミスターVHS」こと高野鎮雄の墓があります。

- ① 刈谷市野田町西屋敷2-1
- ② 刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」小垣江・依佐美線「野田新町駅南口」バス停から徒歩5分

専称寺

P.11 MAP 27

応永7年(1374)、伊勢一身田真宗高田派として開かれ、寛文元年(1661)に浄土宗として改宗しました。寛政2年(1790)、寛政の一揆の発端ともなった寺参会が野田の昌福寺とともに専称寺で開かれました。本尊の阿弥陀如来像は恵心僧都の作と伝わります。

- ① 刈谷市小垣江町地内61
- ② 名鉄三河線小垣江駅から徒歩12分
刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」小垣江・依佐美線「巡見橋」バス停から徒歩6分

重原陣屋跡碑・福島藩領の碑

P.11 MAP 28



寛政の一揆によって刈谷藩は、幕府から村替えの処分を受け重原村、野田村、半城土村、高須村、小垣江村、犬ヶ坪村等18か村を、奥州の福島領・幕領の一部と交換することになり、以来福島藩はこの地に陣屋(現在の重原市民館あたり)において郡代により三河の飛地を治めました。浄福寺の前には「重原陣屋跡」の石碑が建てられています。この碑とならんで「従東福島領」(これより東、福島領)の碑が建てられています。「従西福島領」は、知立市の上重原町公民館裏にあり、もとは東海道筋の福島領の東と西の端にありました。福島藩三河分領は、明治2年(1869)三河国に新たに150か村を与えられ、重原藩が誕生し、やはりここを陣屋として治めましたが、明治4年(1871)廃藩となりました。

- ① 刈谷市重原本町1-72
- ② 刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」西境線・一ツ木線「重原歩道橋」バス停から徒歩4分

刈谷藩の一部が
福島藩の領地となったのじゃ。
事実上の懲罰なのじゃ。



八代藩主 阿部正春

コラム 寛政の一揆と刈谷

寛政の一揆は、寛政2年(1790)12月に三河国刈谷藩領(現愛知県安城市、刈谷市、高浜市、知立市)の諸村で発生した大規模な百姓一揆です。刈谷藩では元文3年(1738)にも一揆が発生しており、いずれも領内諸村に課された金銭負担が原因となり発生しました。

困ったことが
起きたのじゃ〜。
トホホ。

十四代藩主 土井利信



さらにくわしく 江戸時代の刈谷(地域別)

北部(鎌倉街道周辺)

東海道が通る今川村・今岡村の北には、中世の幹線道である鎌倉街道が通った西境村、東境村と、井ヶ谷村があります。この3か村は、様々な領主が交代で治めていたところで、そのうち多くの期間を同じ村内でも複数の領主が存在する相給村となっていました。西境村絵図を例にみると、江戸時代後期の西境村は旗本の加藤氏と沼津藩水野氏の相給となっていて、田畑ごとにどちらに年貢を納めるかが決められていました。北部は自然豊かで、農業や林業が営まれていました。しかし、水源に悩まされた地域でもあり、ため池が多くつくられました。井ヶ谷村では、土井利徳が藩主の時代に境川の浸食谷をせき止めて洲原池がつくられています。



(刈谷市歴史博物館HPより)

北部(東海道周辺)

今岡・今川・一里山の村々は、村内を東海道が通っていました。今岡村は、天正年間に寺社が建てられて発展し、高札場も設けられていたようです。今川村は池鯉鮒・鳴海宿の間の茶屋町として栄えました。逢妻川沿いの泉田村には荷揚げをする土場があり、河川を利用した物流の拠点となっていました。築地村や一ツ木村の辺りでは、逢妻川周辺で水を取り込みやすく、田畑や新田が広がっていました。



(刈谷市歴史博物館HPより)

中部

刈谷市中部地域は、江戸時代、刈谷藩領の中心地域でした。具体的には、城下町の刈谷町、その周辺の元刈谷村、熊村、高津波村、小山村、下重原村のことを指します。特に、城付四町村と呼ばれる刈谷町、元刈谷村、熊村、高津波村は、刈谷城内の掃除役や藩主交代の費用工面など、他の村には見られないような特別な役を課せられました。1792年に寛政の一揆の責任を取られ、一部の市域の村が陸奥福島藩領となりましたが、中部地域では下重原村のみ福島藩領となり、それ以外の町村は幕末までずっと刈谷藩領でした。



(刈谷市歴史博物館HPより)

南部

猿渡川以南の地域は、海(衣ヶ浦)に近いこともあり、新田開発が盛んに行われました。もとは小垣江村と野田村のみでしたが、慶長年間(1596~1615)に半城土村が野田村より分かれました。その後、慶安年間(1648~1652)以降に高須村が小垣江村から分かれました。市域最南部の犬ヶ坪村は1658年に小垣江村から分かれたとの記録もありますが、刈谷藩は1684年の分村として扱っていました。一方幕府は幕末頃まで小垣江村・吉浜村の一部と認識していました。この地域は、吉浜・高浜(高浜市)や高棚(安城市)との繋がりが深く、1791年の刈谷藩と陸奥福島藩との領地替により、幕末まで福島藩領として重原陣屋の代官による支配を受けました。

明治維新の魁 天誅組

江戸時代末期



松本奎堂
(画像提供 刈谷市歴史博物館)

松本奎堂生誕地碑

P.11 MAP 29

文久3年(1863)、倒幕の兵を挙げた天誅組の総裁・松本奎堂の生誕地である旧屋敷跡にある碑です。松本奎堂を含む天誅組の多くは現在の奈良県東吉野村で非業の死をとげました。

- ① 刈谷市司町2-80
- ② 名鉄三河線刈谷市駅から徒歩15分



宍戸弥四郎生誕地碑

P.11 MAP 31

刈谷出身の幕末の志士、宍戸弥四郎の生誕地跡です。弥四郎は、松本奎堂らとともに天誅組として尊王倒幕の兵を挙げました。天誅組では合図係を務めたほか、最後は決死隊の副隊長を務めました。

- ① 刈谷市広小路5-37
- ② 名鉄三河線刈谷市駅から徒歩5分

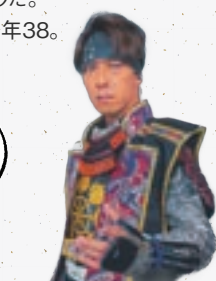


コラム 土井利善の失脚

刈谷藩第二十一代藩主の土井利善は、天保元年(1830年)、遠江浜松藩主井上正南の九男として生まれました。弘化3年(1846年)12月に先代藩主土井利祐が死去したため、弘化4年(1847年)3月に末期養子として家督を継ぎ、早くから西洋式軍隊の優位性を認識し、自藩内で西洋式軍事訓練を行うなど先見性に富んだ譜代大名として幕閣での将来を囑望されていました。しかし、もともと井上家から養子に入った上、実子が早世して養子問題などで藩内部で対立が起こり、さらに尊王派の藩士(松本奎堂、宍戸弥四郎)が長州藩士を匿って天誅組の変に中心的人物として参加

するなどしたことから、幕府からの圧迫を受け、さらに土井家の本家からも圧力を受けました。失意に落ちた利善は、慶応2年(1866年)7月19日に家督を養子の利教に譲って隠居しました。慶応3年(1867年)3月20日に死去しました。享年38。

土井家の時代の刈谷藩では
120年の間に藩主が9回も
変わったのじゃ。
大変な時代だった。



十四代藩主 土井利信

天誅組には刈谷藩から
松本奎堂、宍戸弥四郎、
伊藤三弥の3人が参加したのじゃ。
天誅組の変の4年後
幕府は終わりを迎えるのじゃ。



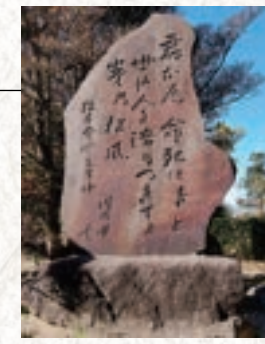
十四代藩主 土井利信

松本奎堂歌碑

P.11 MAP 30

天誅組総裁、松本奎堂の詠んだ辞世の句である「君が為 命死にきと世の人に語りつきてよ 峯の松風」が刻まれています。昭和18年に建てられました。

- ① 刈谷市城町1-1
- ② 名鉄三河線刈谷市駅から徒歩15分



十念寺

P.11 MAP 32

本尊は平安後期作の定朝様式の阿弥陀如来坐像(市指定文化財、以下「市文」)で、寺の山号は「具足山」といいます。同じ本堂内には刈谷藩主土井家の利勝寺本尊(市文)があり、刈谷藩主五家目の阿部正春が寄進した十一面観音菩薩立像(市文)もあります。江戸時代初期期であった塔頭の蓮乗院は現在高浜市内にあります。境内には土井家廟所(市文)があり、土族会の刈谷頌和会が管理しています。幕末の天誅組総裁松本奎堂や俳人小島秋拳の墓もあります。

- ① 刈谷市広小路4-219
- ② 名鉄三河線刈谷市駅から徒歩3分



城下町から産業のまちへ

明治・大正・昭和時代

豊田佐吉らによる豊田紡織株式会社が刈谷に試験工場を設置したことがきっかけで、刈谷は江戸時代の城下町から日本有数の産業のまちとして生まれ変わりました。



刈谷駅誕生

刈谷駅と三河鉄道



1914年2月、西三河の南北をつなぐため、三河鉄道（現在の名鉄三河線）が開通しました。開通当時は、今の刈谷駅より少し南に建てられた刈谷新駅と、大浜港駅（現在の若南駅）の間で運行しており、1日あたり約700人の旅客と約28トンの貨物が利用する路線でした。この貨物には、菰浜などでつくられた土管やかかわらが含まれていました。1927年には、三河鉄道と官営の東海道線（現在のJR東海道本線）との刈谷駅共同利用がスタートし、これまで外に出て行き来していた二つの鉄道が、一つの駅で乗りかえられるようになりました。その後、三河鉄道は、1941年6月には、名古屋鉄道に合併され、名鉄三河線・孝母線【廃線】・西尾線・蒲郡線となりました。

刈谷市郷土資料館

P.11 MAP 33



大正末期から昭和初期の建築様式をとどめる亀城小学校旧本館の建物を保存活用して、昭和55年に開館した資料館です。建物は平成11年に国の登録有形文化財になりました。常設展示室には、歴史資料、民俗資料が展示されています。懐かしい小学校の教室や昭和30年代の家庭が再現された展示室が人気で、個人の方が集められた珍しく懐かしいおもちゃの展示もあります。

- ① 刈谷市城町1-25-1
- ② 0566-23-1488
- ③ 9:00～17:00
- ④ 月曜日（祝日の場合はその翌日）、祝日の翌日、年末年始（12月29日～翌年1月3日）
- ⑤ 無料
- ⑥ 名鉄三河線刈谷市駅から徒歩15分
刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」小垣江・依佐美線「司町4丁目」バス停から徒歩5分
- ⑦ 亀城公園駐車場をご利用ください

刈谷が発展して
藩主のワシも
うれしいのじゃ〜



八代藩主 何部正基

依佐美送信所記念館

P.11 MAP 34



依佐美送信所の関係資料を保存する施設です。当時の通信施設の外観を再現し、貴重な産業遺産である送信機器類が数多く展示され、送信所の歴史を振り返ることができます。それまで国際通信手段を持たなかった日本は、第一次世界大戦（大正3年～大正7年）後に国際無線通信を整備することになり、対欧州向けに長波通信施設の建設計画が進められました。依佐美送信所は昭和4年（1929年）4月18日に開局式が行われました。第二次世界大戦中は日本海軍によって使用され、日米開戦の指令信号「新高山登レー二〇八」はこの送信所からも中継されたといわれています。戦後は米軍に接収され、東西冷戦の終結により平成6年（1994年）に日本に返還されました。この記念館は、鉄塔や送信局舎の内部の一部を整備し、平成19年（2007年）4月にフロールガーデンよさみ内に開館しました。

- ① 刈谷市高須町石山2-1
- ② 0566-29-4330
- ③ 9:00～17:00
- ④ 月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始（12月29日～翌年1月3日）
- ⑤ 無料
- ⑥ 刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」小垣江・依佐美線「フロールガーデンよさみ」バス停から徒歩3分
- ⑦ フロールガーデンよさみ駐車場をご利用ください

豊田佐吉像と豊田自動織機

P.11 MAP 35



現在のトヨタグループの創始者である豊田佐吉の胸像は、佐吉の旧友の久保田長太郎が刈谷市に寄贈したものです。豊田自動織機を発明した豊田佐吉が、大正12年、同機を据え付けた試験工場を刈谷に建設したことがきっかけとなり、刈谷は工業都市として大きな発展を遂げました。刈谷市歴史博物館（歴史ひろば）には佐吉が発明した無停止抒換式豊田自動織機（G型）の後継機にあたるG3型織機が展示されています。

- ① 名鉄三河線刈谷市駅から徒歩14分
刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」小垣江・依佐美線「司町4丁目」バス停から徒歩2分

- | | | |
|-----------|----------------|------------------|
| 1 芋川遺跡 | 13 大手門碑 | 25 刈谷市歴史博物館 |
| 2 天子神社貝塚 | 14 札の辻跡 | 26 昌福寺 |
| 3 ハッ崎貝塚 | 15 二の丸跡碑 | 27 専称寺 |
| 4 本刈谷貝塚 | 16 町口門碑 | 28 重原陣屋跡碑・福島藩領の碑 |
| 5 市原稻荷神社 | 17 御菓子所みづ乃 | 29 松本奎堂碑 |
| 6 小垣江神明神社 | 18 松下米華堂 | 30 松本奎堂歌碑 |
| 7 野田八幡宮 | 19 荒川屋製菓舗 | 31 穴戸弥四郎生誕地碑 |
| 8 熊野神社 | 20 野田史料館 | 32 十念寺 |
| 9 鎌倉街道伝承碑 | 21 いもかわうどん発祥の碑 | 33 刈谷市郷土資料館 |
| 10 天子神社 | 22 きさん | 34 依佐美送信所記念館 |
| 11 椎の木屋敷跡 | 23 洲原池 | 35 豊田佐吉像と豊田自動織機 |
| 12 本丸跡碑 | 24 洲原神社 | |



ぜひ刈谷に
遊びに
来て下され。



四代藩主 松平定政

